

いじめのない学校を目指して

上尾市教育委員会

いじめにより児童生徒自らがその命を絶つという痛ましい事故が相次いで発生しています。いじめは決して許されないことであり、また、どの学校でも、どの子供にも起こり得るものです。この教師用指導資料は、学校がいじめの兆候をいち早く把握して、迅速かつ組織的に対応し、いじめのない学校を実現するために作成しました。

いじめの定義

（いじめ防止対策推進法 平成25年法律第71号）

児童生徒に対して、当該児童生徒が在籍する学校に在籍している等当該児童生徒と一定の人的関係にある他の児童生徒が行う心理的又は物理的な影響を与える行為（インターネットを通じて行われるものを含む。）であって、当該行為の対象となった児童生徒が心身の苦痛を感じているものをいう。

いじめの「7つの特徴」は

- 1 いじめの初期は、言葉の暴力から始まる**
・きもい・うざい・死ね・むかつく・ださい・ばい菌・くさい・ガイジなど
- 2 いじめとふざけの境界線がわかりにくく事実が見えにくい**
・プロレスごっこやふざけっこなどの遊びなどから、罪悪感がなく発展する
- 3 集団化してくる**
・いじめられることを恐れ、いじめる側が集団化してくる
- 4 長期化すると陰湿化・悪質化する**
・いじめに気付かないと、執拗に、巧妙に長期にわたっていじめを続ける
- 5 場面が変われば立場も変化する**
・小学校ではいじめる側だったのに、中学校では自分がいじめられる
- 6 犯罪行為や不登校、自殺にまで追い込んでしまうことがある**
・暴行、恐喝、傷害等の加害や、被害者を不登校、自殺にまで追い込んでしまう
- 7 教師の言動や姿勢がいじめを誘発することがある**
・教師の不用意な発言や児童生徒への接し方が、児童生徒をいじめの対象にしてしまう

いじめに気付くためには

○ いじめはあるものと思う

いじめはないと思いでしまうと、見えるものも見えなくなる。教職員 一人一人が「いじめがあるかもしれない」との認識に立って組織的・継続的に観察を続け、生徒に「いじめは絶対許さない」ことを常に発信する。

○ いじめは教師の目の届かないところで多く行われる

いじめは、登下校時・休み時間・昼休み・清掃時・放課後・部活動時など教師の目が届きにくいところで多く行われる。児童生徒一人一人に十分な「目配り・気配り・心配り」に努め、教師間の情報交換を密にする。

○ いじめに気付かない・注意しない教師の前では、だんだんエスカレートする

教師がいじめに気付かないと、いじめをさらに進めてしまうことになる。また、いじめを注意しない教師は、児童生徒から信頼されず、相談されることもなくなる。誠意をもった態度が相談しやすい「先生」になる。

○ 保護者との連携及び信頼関係の醸成

些細なことでも、学校での児童生徒の変化を保護者へ連絡するとともに、家庭の様子を聞くなど、迅速で誠意ある対応が、保護者との信頼関係を醸成する。保護者との信頼関係は、いじめを早期に発見し解決する上で極めて大切である。

○ 携帯電話やインターネットの利用実態を把握するための調査を行う

ネットいじめは、時間と場所を選ばず、いつでも行われる危険性がある。児童生徒の携帯電話やスマートフォン、インターネットの利用実態等を把握し、情報モラル教育等により具体的な事例を挙げ、予防に努めることが大切である。

クラスで取り組む「いじめをなくす3つの誓い」

「私はいじめを絶対しません」

「私はいじめを許しません。いじめられている人を助けます」

「わたしは一人で悩まず、先生や親に相談します」

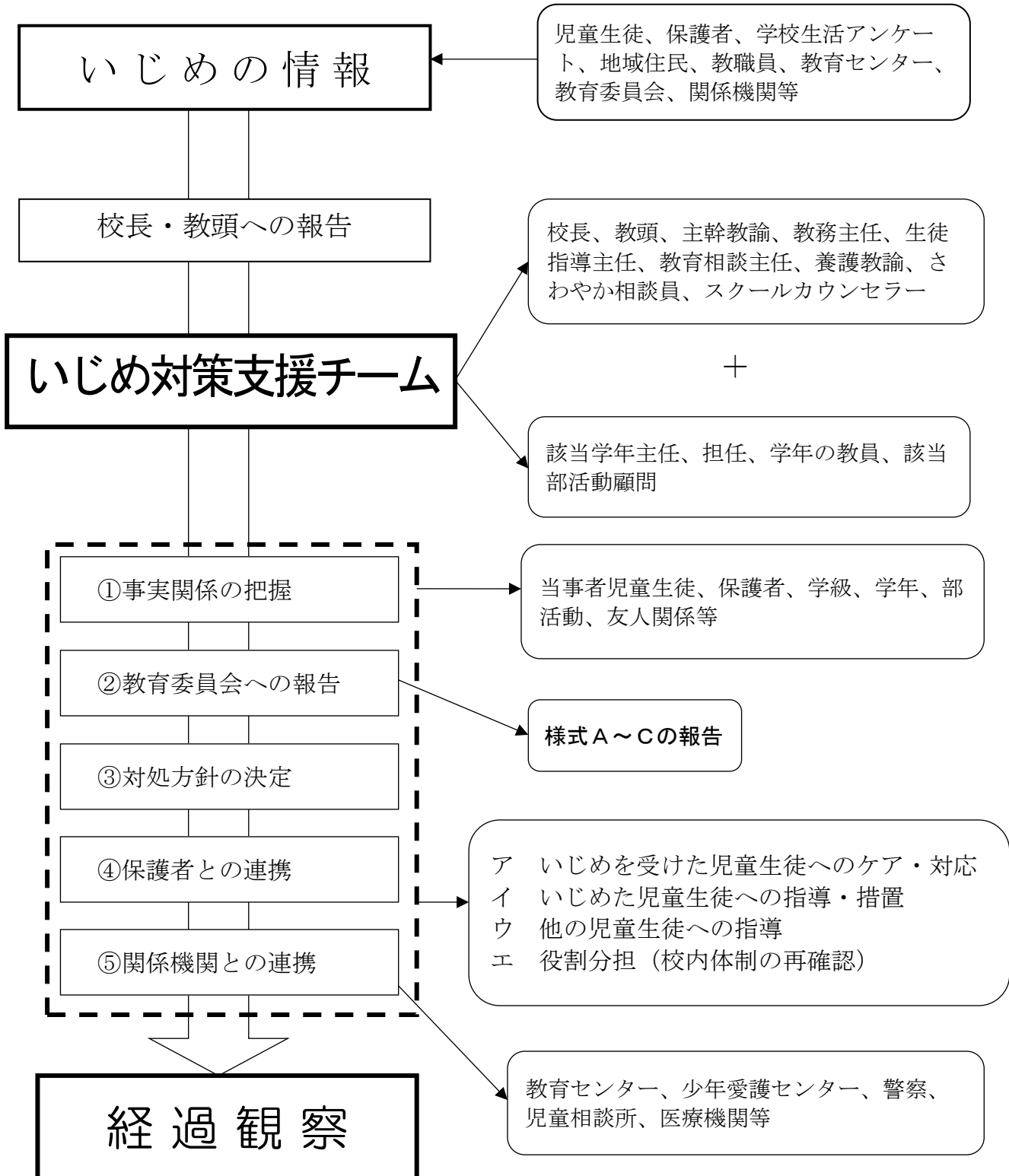
いじめのサインを見逃さない ～場面ごとの具体的な着眼点とは～

◎ 以下の項目に当てはまる場合は、直ちに児童生徒に声をかける。

- 【登校】
 - 登校時刻が遅れがちである。
 - 表情が暗く、あいさつの声が小さい。
 - 服装が汚れたり破れたりしている。
- 【健康観察】
 - 遅刻や欠席が続いている。
 - 腹痛や頭痛が続いている。
 - 話しかけても目を合わせようとしない。
- 【授業中】
 - おどおどした様子が見られる。
 - 発表を笑われたり、からかわれたりしている。
 - 班やグループを作る時に孤立している。
 - 提出物や学習用具を続けて忘れる。
 - 机が離されていたり、配布物がとばされたりしている。
 - 教科書やノートに落書きが多く見られる。
- 【休み時間】
 - 遊んでいるときにも笑顔が少なく、表情が暗い。
 - 周りから、ちょっかいを出されている。
 - 職員室や保健室に出入りすることが多い。
 - 人目の付かない場所に行くことが多い。
- 【給食・清掃】
 - 給食配膳時に避けられる様子が見られる。
 - 給食の食べ残しが多い。
 - 周囲の友だちと会話が弾まない。
 - 準備や片付けなど、仕事を押しつけられている。
 - 清掃時に机を運んでもらえない。
- 【下校】
 - 下校時刻になっても学校に残ろうとする。
 - 一人で帰ることが多い。
- 【その他】
 - 作品や掲示物、机等に落書きや破損が見られる。
 - 持ち物等が隠されたり、なくなったりすることがある。
 - 欠席の日にプリント類を届ける友だちが少ない。
 - 日記等に、嫌だったことなどをよく書いてくる。
 - 急激な成績や学習意欲の低下が見られる。

いじめが生じた際は

- *いじめの訴えや情報、その兆候等は、どんな些細なものでも真剣に受け止める。
- *特定の教職員が抱え込むことなく、学校全体で組織的に対応する。
- *家庭や関係機関との連携を密にし、学校のみで解決することに固執しない。
- *いじめを継続させないために、必要に応じて弾力的に対応する。



中学校の取組例

【取組例 1】いじめ対策支援チームによる対処

1年生男子数名が、同じ部活動内の気弱な生徒に対して、からかいや挑発をして興奮させ面白がる傾向が見られた。部活動顧問は、生徒に様子を聞いたところ本人は「大丈夫だ。」と話したため、様子を見ることにした。後日、いじめられている生徒の保護者が三者面談で担任に相談した。

- 1 担任は、保護者から話を聞き、いじめをなくすために指導することを約束した。
- 2 担任と学年主任は、教頭、主幹教諭に報告し、今後の対処の指示を受けた。
- 3 校長は、教頭から報告を受けるとともに、「いじめ対策支援チーム」を開催して対処に関する役割分担を決めるよう指示した。
- 4 「いじめ対策支援チーム」で、それぞれの役割分担を次のように決めた。
 - ア 担任と部活動顧問が、いじめを受けた生徒と保護者から状況を詳細に聞く
 - イ 学年と学年主任が主幹教諭、生徒指導主任、部活動顧問等とチームを作って、いじめに関わった生徒一人一人から事情を聞く。
 - ウ 学年の教員、部活動顧問等が、いじめられている生徒に近い友だちから状況を聞く。
- 5 「いじめ対策支援チーム」で、事実関係の報告を聞き、指導の方針を決定した。
 - ア いじめに関わった生徒といじめられた生徒に対して、複数の教員で個別に指導する。
 - イ 学年集会で、「いじめはしない させない 許さない」の視点で指導し、いじめを許さない雰囲気を醸成する。
 - ウ 担任と学年主任等のチームで、いじめを受けた生徒の保護者の思いをよく聞くとともに、学校の方針を伝え、保護者の協力を得るようにする。
- 6 学年保護者会や部活動保護者会等を通して、保護者にもいじめの問題を自分のこととして捉えてもらった。
- 7 学年主任、担任と部活動顧問が連絡を取り合い、経過を観察した。

【取組例 2】いじめのない学校を目指して

いじめのない学校を目指して、学校・学年や生徒会等で組織的に計画的に取り組んでいる。

- 1 教育相談週間を年間計画に位置付け、学級担任が個別面談を通していじめやいじめの兆候について情報収集や実態把握をしている。
- 2 いじめ対策強調月間を設定し、全校ぐるみで集中的に取り組み、生徒の人権意識の高揚を図っている。
 - ア 人権擁護活動週間の設定
(非行防止教室の開催、学級の道徳の時間で一斉指導など)
 - イ いじめ防止に関する標語募集
 - ウ 生徒会で「言われてうれしい言葉」「いやな言葉」調査
 - エ 生徒会で、「いじめ0(ゼロ)宣言」に向けた学級活動での討議
- 3 日常的に「生活記録ノート」を活用し、生徒の一人一人の状況把握に努めている。
- 4 いじめが生じた際は、生徒指導委員会で対応や指導方法について話し合い、迅速に対応している。
- 5 学習規律や生活規律の定着を目指して、規律ある態度の育成に全校で計画的に取り組んでいる。
- 6 保護者懇談会で、いじめに関する相談機関の案内を配付するなど、早期発見・早期対応について協力を依頼している。
- 7 中学校区生徒指導連絡協議会で、いじめについて地域の関係機関・団体、地域住民等と意見交換し、協力を依頼している。

(参考) 「いじめを考える授業」 学習指導案例

第3学年〇組 道徳科学習指導案

- 1 主題名 相手の立場に立って、広い心で 内容項目 B 相互理解・寛容
- 2 ねらい 互いのもつ異なる個性を見つけ、違うものを違うと認め、ときには許す私心のない寛容な心、偏狭なものの見方や考え方のない広い心を育てる。

教材名 「心のパス交換」 (出典 「彩の国道徳『学級づくりの羅針盤』 埼玉県教育委員会)

3 主題設定の理由

(1) ねらいとする道徳的価値について

本時は、中学校の内容項目B相互理解・寛容は「自分の考えや意見を相手に伝えるとともに、それぞれの個性や立場を尊重し、いろいろなもの見方や考え方があることを理解し、寛容の心をもって謙虚に他に学び、自らを高めていくこと。」をねらいとしている。寛容とは、心が寛大で、よく人を受け入れること。過失をとがめだてせず、人を許すことである。

中学生の時期は、同調過剰の傾向を生じ、いじめのような問題に発展することもある。多様な個性を認め合いそれぞれの差異を尊重するという態度を育てることにより、互いに認め合い、許し合う人間関係づくりにつなげさせたい。

(2) 生徒のこれまでの学習状況及び実態

省 略

(3) 教材の特質や活用方法

本資料は、予想外にバスケットボール部の副部長に指名された主人公康太が、部長のケガ、その原因となったチームメイトとの関係を通して、自他の個性の違いに気づき自らを振り返り、相手の立場に立った寛容な心について考えるという資料である。

他人の考えや行動から、自分の考えが大きく変わっていく主人公康太の気持ちを中心に考え、「自分が認められている」という喜びや他人の個性を受け入れる寛容な心、また、ケガをさせてしまった勇人の気持ちについても考え、互いに認め、許し合う、共に成長し合える人間関係づくりについても考えさせたい。

4 (1) 学習指導過程

段階	○学習活動と主な発問 ・予想される生徒の反応	・指導上の留意点 ☆評価の視点
導入 7分	1 「自分の性格について考えよう」のアンケート結果を振り返り、自分と友達のを考える。 ○以前行ったアンケートの結果を見てみましょう。	・アンケートの結果を提示する。 ・ねらいとする道徳的価値に対する意識を高めるために、学級全体で、アンケートの結果を大型テレビで共有し、学習問題の設定を行う。

		<ul style="list-style-type: none"> ・道徳的価値への方向付けとともに、問題設定を行う。
<p>展開 38分</p>	<p style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 5px;">互いの個性を認め合うには、どうすれば良いか考えよう。</p> <p>2 教材「心のパス交換」を読んで話し合う。</p> <p>(1) 発問1 勇人についてのチームメイトからの言葉を聞きながら、「康太」はどんな気持ちだったのだろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・けがをさせたのに謝らないのだから言われても仕方がない。 ・日頃の行いが悪い。 ・さすがに言い過ぎではないか。 <p>(2) 発問2 勇人が自分を尊敬していることを知った「康太」は、どんな気持ちになっただろう。(中心的な発問)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・勇人はわかってくれていた。嬉しい。 ・勇人のことを理解していなかった。ごめん。 ・勇人に言い過ぎてしまった。 ・守ってあげられなかった ・勇人だって謝りたかったけど、言葉が出なかっただけかもしれない。 <p>(3) 発問3 勇人への電話を手にする「康太」は、この後電話でどんなことを話そうと考えていただろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・守ってあげられなくてごめん。 ・話を聞いてあげられなくてごめん。 ・またみんなで一緒にバスケしよう！！ <p>補助発問 この話で起きている状況は、「いじめ」でしょうか。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・康太の気持ちを考えながら教材を聴くように指示する。 ・部長のいないチームの現状や勇人の対応に苦悩する主人公に共感させるとともに、自分にはない良さを持つ直也や勇人に対する主人公の気持ちに着目させる。 ・個人で考え、ポートフォリオに記入後、グループで話し合い、意見を交換する。なお、グループは4人グループとし、全員の考えを発表させたあとで、どのような考えが出たかを全体で共有する。また、意見は集約するのではなく、自他の考えの類似点や相違点をとらえさせる。 ・「自分が認められている」ことへの喜びだけでなく、勇人や直也の考えや立場についても気づいていく康太の多様な思いを引き出すようにする。 ・個人で考え、ポートフォリオに記入後、グループで話し合い、意見を交換する。なお、グループは4人グループとし、全員の考えを発表させたあとで、どのような考えが出たかを全体で共有する。また、意見は集約するのではなく、自他の考えの類似点や相違点をとらえさせる。 ・康太の自分自身や勇人に対する思いの変化について感じさせる。 ・個人で考え、ポートフォリオに記入後、グループで話し合い、意見を交換する。なお、グループは4人グループとし、全員の考えを発表させたあとで、どのような考えが出たかを全体で共有する。また、意見は集約するのではなく、自他の考えの類似点や相違点をとらえさせる。 ・必要に応じて、「いじめの定義」に立ち戻らせて、状況を整理する。

	<ul style="list-style-type: none"> ・周りの友達「勇人がすぐに謝らなかったこと」を、勇人に注意していただけだから、いじめではない。 ・周りの友達数人が、勇人を傷つけるようなことを言い、その結果、学校に来られないくらいショックを受けたのだから、いじめである。 <p>3 ねらいとする道徳的価値に照らして自己を振り返る。</p> <p>○今日の授業を通して「互いの個性を認める」には「どうすれば良い」と思いますか授業を振り返り書いてみましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・友だちのことをよく知ること ・自分とは違う考えの人もいるということを知ること ・「普通は・・・だろう」と決めつけないこと。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「いじめでない」と考えた生徒の考えの理由について理解を示しながらも、いじめであるかは、対象生徒が「どう感じたか」「どう捉えているか」が判断基準になることについて押さえる。 ・勇人にどのように伝えればよかったのかについて考えさせる。 ・個人で本時を振り返らせ、ポートフォリオに考えたこと、感じたこと、これからの生活に活かしていきたいことを記入させる。 <p>☆互いの個性を認め合うにはどうすれば良いかを考え、これからの自分の生活にどう生かしていくかを考えている。(ポートフォリオ)</p>
<p>終末5分</p>	<p>4 教師の説話を聞く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・他の人の考えや行動から、自分の考え方が大きく変わり、人間的に成長したという経験について、話をする。

5 評価の視点

【物事を多面的・多角的に考える様子】

- ・課題の解決に向けて多様な視点で考えている。

【道徳的価値についての理解を自分との関わりで深めている様子】

- ・寛容な心を持ち、相手の立場や考えを共感する意義について自分との関わりで考えている。

6 板書計画

◎互いの個性を認め合うには どうすればいいか考えよう
「心のパス交換」

登場人物
主人公・康太 バスケ部副部長（予想外の指名） チームをまとめようと声をかけを努力している

直也 バスケ部部長 僕（主人公）にないものを持っている（エース）

勇人 僕（主人公）にないものを持っている 転校生 口数が少ない いつも一人 熱中すると乱暴さが出る

1、勇人についてのチームメイトからの言葉を聞きながら、「康太」はどんな気持ちだったのだろう。
・ けがをさせたのに謝らないのだから言われても仕方がない。
・ 日頃の行いが悪い。
・ さすがに言い過ぎではないか。

2、勇人が自分を尊敬していることを知った「康太」は、どんな気持ちになっただろう。
・ 勇人はわかってくれていた。嬉しい。
・ 勇人のことを理解していなかった。ごめん。
・ 勇人に言い過ぎてしまった。
・ 守ってあげられなかった
・ 勇人だって謝りたかったけど、言葉が出なかっただけかもしれない。
・ 心には届いていた

3、勇人への電話を手にする「康太」はどんなことを考えているだろうか。
・ 直也の分まで頑張らなきゃ。
・ 何としても勇人を連れ戻さなきゃ。
・ 勇人あの時のごめん・・・。
・ またみんなで一緒にバスケしよう!!

謝りに来た勇人 勇人を守ると言った直也

心のパス交換

第1学年〇組 学級活動（2）指導案

1 題材 「いじめをなくすために」 内容（ア）自他の個性の理解と尊重、よりよい人間関係の形成

2 題材について

（1）生徒の実態

省 略

アンケート項目	結果	
あなたは「いじめ」はなくなると思いますか。	はい 〇人	【理由】 ・ルールを守っているから ・みんなで協力すればなくなる ・全ての人が常に相手がどう思っているか考え行動を制限すればなくなると思うから ・大人が頑張っているから
	いいえ 〇人	【理由】 ・人はそれぞれの価値観をもっているから ・何を言っても聞いてくれない人がいるから ・いろいろな対策をしているがなくならないから ・いじめが無くなるなら、もうすでに無くなっているはず ・気を付けて行動しても、自分の意志やストレスで動いてしまうから ・いじめは日常の中から生まれるから 【他の意見もあり】
どんなことが「いじめ」だと思いますか。	<ul style="list-style-type: none"> ・被害者がいじめと感じたらいじめ ・悪口 ・仲間外れ ・大勢の人が少人数の人を攻撃すること ・暴力 ・嫌がらせ ・本人が嫌がっていることを続けること ・落書きをする ・相手を傷つけて悲しい気持ちにさせてしまうこと ・脅し ・死ぬまで追い詰める ・差別 ・無視 	

（令和〇年〇月〇〇日実施）

アンケート結果から、〇割の生徒がいじめはなくならないと考えていることが分かった。理由についても、日常生活から考えられることや、ニュースや今までの経験から感じていることを述べていた。また、「どんなことがいじめだと思いますか」という質問にも多くの記述があり、「いじめ」に関する授業をまだ中学校で実施していなくても、「いじめ」についての考えは持っていることが分かった。

（2）題材設定の理由

これまで、〇中学校では生活アンケートの活用、毎学期家庭へのアンケート実施、個別相談など、早期発見、早期対応に努めてきた。本学級でも、お互いの良さを認め合える雰囲気作りや活動に取り組んできた。いじめについては、ほとんど触れてきていないが、いじめが絶対にダメなものという考えはしっかりと持っていることが分かった。この授業を通して、一人一人がいじめ

入 1 0 分	振り返り（学級・学年目標、良さに気付く、認め合う活動） 2 事前アンケート結果を知る 3 いじめの定義を確認	振り返り、互いに協力し合うこと、認め合ってきていることを確認する。 ○学年目標と学級目標に共通する「笑顔」という言葉に注目させる。 ○アンケート結果やいじめの定義を確認することで、いじめについてイメージを膨らませる。	（大型モニター） アンケート結果 （大型モニター）	
展 開 3 0 分	4 本時の課題を知る 5 動画を視聴する 6 「いじり」について話し合う ・「いじり」はどんな場面で起きることが多いか ・「いじる人」と「いじられる人」の気持ちについて触れる 7 笑いの種類について話し合う ・ポジティブな笑い ・ネガティブな笑い	みんなが笑顔になれる仲間との関わり方を考えよう		
		○面白かったら、素直に笑っていいことを伝える。 ○身近に「いじり」はあるのか確認する。 ○芸人と素人との「いじり」の違いについて捉えられるようにする。 ○笑いの種類について、表情や言葉で表現できるよう、和やかな雰囲気を作る。	ICT機器を活用（タブレット、大型モニター） ワークシート	
終 末 1 0 分	8 みんなが笑顔で生活するために、自分が取り組むことを決定する 9 本時の学習を振り返る	○互いの生活がよりよいものになるように、自分の意思を決定できるように助言をする。 ○個々の考えを全体で共有する。	ワークシート	◎多様な意見をもとに自ら意思決定して実践している。【集団や社会の形成者としての思考・判断・表現】 （ワークシート・発言・観察）

8 事後の指導

日時	生徒の活動	指導上の留意点	目指す生徒の姿【観点】（評価の方法）
2月下旬 3月中旬	・毎月の生活アンケートの実施 ・1年生のまとめの実施	・実践の振り返りを記入させ、取組を確認し合う場を設け、お互いへの実践を認め、継続的に取り組めるようにする。	他者への尊重と思いやりを深めてよりよい人間関係を形成しようとしている。 【主体的に生活や人間関係をよりよくしようとする態度】（生活アンケート・まとめプリント）

9 板書計画

いじめをなくすために 今までの活動の振り返り	本時の課題 いじめの定義	いじりについて 「いじる人」 「いじられる人」	笑いの種類 「ポジティブ」 「ネガティブ」
---------------------------	-----------------	-----------------------------------	---------------------------------

10 ICT活用計画

導入・・・1・2学期の振り返り、アンケート結果

展開・・・動画の視聴

上尾市「いじめ根絶」中学生宣言

私たちは、強い意志をもっていじめをなくし、互いに支え合い、「笑顔いっぱい さわやかなあいさつ」のあふれる楽しい学校をつくりま
す。上尾市の全中学校・全生徒は、ここに「いじめのない学校をつくる」こ
とを宣言します。

**人をきずつける言動は
絶対にしません**

私たちは、いじめを絶対にしません。相手が嫌がることはせず、相手
の気持ちを考え、正しい行動を取ります。

**やさしさと勇気を持ち
まも
仲間の笑顔を護ります**

私たちは、友達を信頼し、やさしさをもって接します。見て見ぬふり
をせず、自らの意志を伝える勇気を持ち、仲間と助け合います。

**一人一人の人権を尊重し
思いやりの心をもって生活します**

私たちは、友達や先生方、地域の方々とのふれあいを大切にします。
一人一人の個性を互いに認め、支え合います。

平成25年12月7日